

氏名： 藤田 宗和 (FUJITA Munekazu)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 修士
職名： 教授
専門分野： 犯罪非行臨床心理学、臨床心理査定
E-mail： fujita.munekazu@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

心理査定／投映法 (TAT)／犯罪・非行／自己愛

◆研究内容 / Research Pursuits

- 1 投影法であるTAT物語産出の基礎過程を実験的研究し、その産出プロセスを形式的、内容的に分析し、分析・解釈のための標準的な資料を収集した。現在、その資料を分析中であり、2007年には日本ロールシャッハ学会において、「TATの物語産出時の思考プロセスの検討」という題目で、標準的な物語産出プロセス、物語内容の特色の一部を発表した。本年度も継続して、分析結果を公表する予定である。
- 2 「矯正施設における教育研究会」の活動として、法務省と協力し、少年院での教育について調査研究を行っており、本年度は少年、職員に対して質問紙調査を実施し、少年院での教育の特色、効果を検討する。

◆教育内容 / Educational Pursuits

生活科学部・人間生活学科・発達臨床心理学講座における教育内容：

「人格心理学」、「発達臨床基礎演習」、「教育発達講義購読」、「発達臨床論文演習」等を教授

大学院人間文化創成科学研究科・人間発達科学専攻（発達臨床心理学コース）における教育内容：

「非行臨床心理学特論」、「臨床心理査定演習（実践）」、「発達社会科学論」、「特別研究」等を教授
学部、大学院とも、臨床心理学における心理査定を中心に教授している

◆研究計画

- 1 臨床心理査定のツールとしての TAT の研究
特に人間関係の問題に敏感である T A T（主題統覚検査）の標準的分析、解釈法を確立する。大学では、物語産出の基礎過程を実験的研究し、分析・解釈のための標準的な資料を作成している。今後は臨床施設と共同して臨床群の資料を収集していきたい。
- 2 非行の背景にある現代青少年の意識についての研究
非行の裏側に見えてくる現代青少年の意識について、自己愛をキーワードとして、検討する。

◆メッセージ

学部、大学院とも、臨床心理学、特に心理査定の理論と実践を中心に研究、教授しています。また、これらの成果を援用して、特に犯罪、非行領域において、犯罪者や非行少年の主観的な世界を描き出す中で、その原因、背景を解き明かし、彼らの更生を図るための手がかりを探求しています。

具体的には、心理査定において関心のあるものは、T A T という投映法テストで、その標準的な分析、解釈法を開発することが研究テーマです。また、犯罪の鑑定の実践を通して、最近の犯罪の質的な変化を検討する中で、現代日本人の意識の変化についても関心を広げています。